

こだま通信

48・49合併号



【編集】 特走非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西線島1-1-19

☎&FAX 0852-28-8162

・ ・ ・ 現場力 ・ 実践力 ・ ・ ・

これまでとは異業種から転職して来た職員が多くなって来た。そして、かかわりを進めていくごとにこだまの仕事が楽しいと言ってくれている。自分の天職のようにいきいきと動き回っている職員もいる。これまでの経験を存分に発揮して、楽しい活動をつくってもらいたいと思う。そのためには現場力や実践力を上げたり高めていったりしてほしいと思っている。

事務所に帰ると、夕方の入浴サービスから帰った女性職員から嬉しい報告をもらった。1人の利用者の方の最近の様子についてだった。

これまで他の利用者とは一緒に仕事がなかなかできにくい方に、職員もなんとかしなければと思案していたという事だった。ところが、最近ちょっとした配慮や声かけで、これまでしようとしなかった作業への参加ができるようになったり、他の利用者の方との会話をしている姿も見られるようになった。そんな利用者の変化は、家庭でも会話が増えたり生き生きとしているように見えたりというかたちで表れ、家族の方からも感謝の言葉をいただいているという報告だった。

嬉しかった。利用者の方の動きに注意を払い、何とかできないかと一生懸命考え、日常の活動に少しずつ誘っていったであろう職員の良い心遣いが感じられ、良い職員になったなー、とまたまた嬉しかった。

そういえば、同じような場面をこれまでも何回か経験してきた。美辞麗句を並べた説明よりも利用者の方が現実にかわっていく姿で保護者の方や周りの方の理解を広げていくことになる。これこそが、福祉の現場力あるいは実践力という事になるのだろう！ 立派な支援計画が立案されていても、実際に日々の小さな変化や動きを見のがさず、その人

にとつて必要な力は何か、どんな手助けが必要かを判断し実践していく力こそが、われわれ支援者には求められる。

きめられた予定にそって活動をそつなくこなしていく事も必要ではあるが、いま一緒にいる利用者の方の状態から、こつちの活動の方がいいな、やり方がいいなとアイデアを次々に出せるような職員でありたいと思う。自分のこれまでのキャリアから取り出せるものでもいいし、新しくスキルアップに取り組んで提供してもいいと思う。

いつも思っていることなのだが、情報はどこにもある。それを受け取る側がアンテナを張っていないと見過ごしてしまう。自分に求められているものを知り、あらゆる場で情報がキャッチできることが理想だ。

そうする事が、自分の現場力・実践力を高めていく近道になる。

【山田 久】

お 詫 び

こだま通信48・49号は、昨年の11月に発行の予定をしていましたが、大変な運発行となりました。記事が少し古くなったものもありますが、そのままお届けします。今後は定期発行に努めます。

研修報告 広島 きつつき作業所に行ってきました

もともと東北のボランティアにいきまますとお知らせしていた9月のお休み。そんな矢先、広島での土砂災害のニュース。急遽予定を変更し広島へいくことに。しかしながら、ボランティアの申し込みや保険の登録をすませた直後に、現場のボランティアセンターから受け入れがむずかしいとの連絡をうけました。残念ながらボランティア活動は見送ることとなりましたが、共同作業所の頃から山田さんと親交のあるきつつき作業所（社会福祉法人交響・広島市東区）の安部さんを見学をさせていただくことになりました。

常務理事の安部さんとお会いして事業所の様子を聞きました。交響では、記念公園の千羽鶴をリサイクルして文房具製品にする事業や、瀬戸内海の職人さんにプレス機を作ってもらい、1枚ずつ丁寧に作るいわせんべいなど、地域性やオリジナリティの高い魅力ある製品づくりを紹介していただきました。「自分でなんでもやろうとしないで足りない所は外部の人、専門家に頼る」「昔（作業所時代）は『働く』という選択がしかなかった。でも今はもっと幅広くいろんな展開ができる」安部さんは、長年関わってきた中で「障がいをもって生活することは本当にたいへんだと思う。そんな彼らにどんな関わり方をする？あんまり厳しいこと求めないでも、もっと大きなことがある」安部さんはそんな風にいわれました。

説明の後、グループホーム6ヶ所を見学させていただきました。体験利用のみのグループホームもありました。各グループホームにはそれぞれ苦勞された部分や、生活の中で気づいたことなどたくさんお話をきかせてもらえました。何よりも利用者ひとりひとりの住まいであることを大切にされた関わりをされていることがとてもエピソードの中にあふれています。

最後に連れて行ってもらったのは、広島駅北口のすぐのところにあるパン屋さんSOAR（ソアー）。5階建てのビルの1階に、関西の企業と業務提携したすきな店舗がありました。ポスターやチラシにはいきいきとほたらく仲間の表情。就労Bといっても事業所によってこんなにも雰囲気かわるものだと感じました。わたしたちは、いろいろな質問をし、安部さんからは懐の深い、今の私たちにとても大切な利用者への向き合い方についてメッセージをくれたように思います。安部さんの物腰のやわらかい言葉をきくと、こんな素敵な支援者にあえた方々はとっても幸せだなと感じます。その中で障書福祉の先人の言葉を教えていただきました。「おおらかに。こまやかに。さりげなく」この言葉の意味ですが、私たちがどれくらいできているか。少しでも、安部さんのように近づきたい、目の前の利用者の支援を、日々の関わりを大切にしていきたいと思うことのできる研修になりました。

（川上 太郎）

私はグループホームの見学について報告します。見学した全ての建物がバリアフリー化された専用の建物であり、立地場所も住宅地のご真ん中に位置していました。まさに、「地域の中で」を実践されています。室内はどこもキレイに掃除や整頓が行き届き、快適な印象を受けました。もちろん、一人ひとりにあった住みやすい環境構造も整備されていて、たいへん感銘を受けました。グループホームを開所・運営するにあたって私が一番ポイントとしている事が「支援者」であり、どのようにして人材を確保し配置しているかについて質問してみました。すると、安倍さんからは「ここでは経験豊富な正規の職員を2人配置しています。反対に生活介護では、複数での支援となる為、経験豊富な職員は1人の配置にしています。」との回答が返ってきました。事業的にも赤字だということで、社会的使命感をもって利用者のくらしの支援に取り組み続けている事も分かりました。こだまの今後のグループホームに関する動きとしては、理想と現実の狭間の中で迷いながらもありますが、まずはできる事から第一歩を踏み出していこうと思えます。一日のみの見学会ではありませんでしたが、福祉に携わる一人の職業人として大きな大きなヒントを得る事が出来た貴重な体験となりました。

伊藤看護師の健康講座

生きていく時に大切なこと



これまででは、小さいお子さんのいるお父さんお母さんが増えて来ました。とても嬉しい事です。子育てで一番大切な事は「この世のなかに自分を一番愛してくれて大切にしてくれる人がある」と感じ、安心を与える事ができる事だと言われています。

無心で産まれ、全てを誰かに委ねなければ何もできない時期「自分は守られている、愛されている」という安心感を得る事は、人間の生涯のなかで最も鮮明に記憶される重要なものです。

それは「自分はここにいて良い、生きていて良い」という存在感を育み、これから成長して行く上での心のエネルギーとなっていきます。物理的環境が整っているだけでは成長は止まってしまいます。育児を辞書でひくと「世話、療育をする事」とあります。例えば親鳥がその羽で、ひなをおおい包み育てるように、かばい守り、養い成長させ、自立できるようにしてやる事であり、その実績や評価が数字であらわされるものではなく、効率の良さを求められるものでもありません。優しく触れたり、言葉をかけた時、世話をすることは手間暇のかかる事ですが、愛情をもって育ててもらった心のエネルギーが、自分を大切に思う気持ちとなり相手思いやる気持ちが生まれ、強く生きて行く力になって行くのです。心に余裕を持って、笑顔でいっぱい抱っこして下さい。

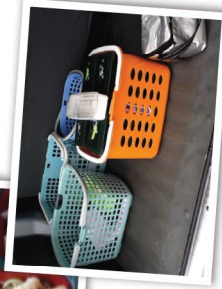
私たち大人も、居場所を得て、守られて、そこが安全で周りに気遣いなくポーッととしていられる。そんな幸せを満喫したいですね。【伊藤和枝】

私の仕事・・・ポレポレ編

朝ポレポレに来たら野菜市の準備をし、お客様が来られたら電卓を使って接客します。そして配達に行く準備をして車にお弁当を積み込みます。お客様の所では大きな声で挨拶をして渡します。徐々にお客様との会話も出来るようになってきました。働く時間も以前より長くなり仕事に自信がもてるようになってきました。これからも頑張っってやっていこうと思っっています。

応援してください。よろしくお願ひします。

(高原由貴子)



私が施設見学をさせていただいた中で一番印象に残ったのは、グループホームの一室でした。車イスの方が使う予定で準備をすすめていたそうです。室内と浴室が戸ひとつでつながっていて、車イスのまま移動ができるリフトつきました。どうやって浴室まで移動するかを教えてくださいました。周りの環境を工夫して準備をしていけば、こうして生活することもできるんだということがよくわかりました。自由に手足を動かすことができなくても、ヘルパーさんの手を借りながら自分らしく生活を送ることを想像すると、支援者として、なぜか一人胸をおどらせていました。ドキドキワクワク、嬉しいというよりも楽しみといった感情でしょうか。安部さんとお話させてもらったことはもちろん、施設内を自分の目で見てまわられたことは、とても貴重な時間となりました。(野津拓磨)



きつぎの安部さんは「自分達の時代は学校を卒業したらみんな働くものだと思っていた。今では卒業する生徒に対して振り分けることをしている」といわれ、自分にはこの言葉がとくに印象に残った。どんな障がいがあるかが働く事の喜びはあっていいとおもう。直接働く事も「働く」だろし、間接的に作業する事も「働く」、周りと一緒に笑う事でもその雰囲気を作る事も作業の一環だと思っ。できなきゃいけないではなく、どうやったらできる(参加できる)ようになるだろうかということに常に考えなければいけないと思う。(岡崎優)



広島グループホームへ研修に行ってきました。安部さんから広島での災害の様子を聞いたり施設の話も聞きました。きつぎさんでは千羽鶴を使って再生紙で作られた付箋、ボールペンをみせて頂きました。グループホームを見学後は就労施設の見学でしたが、私はそこで今ポレポレがやらなければならない事を見させて頂きました。綺麗に整理整頓されている厨房に作業室とても分かりやすく工程が掲示してあります。ポレポレでも利用者さんが分かりやすい流れを今後作って行きたいと思っ。残念ながらボランティアは出来なかつたのですが、帰る車内からは安佐南区や安佐北区の災害にあった生々しい山を見ました。早い復興を願っています。(野野美津代)



たくさんの研修にも行かせていただいております。まだまだですが知識も身につけてきています。ですし、実際に経験を通り身についたかなとも思っこともたくさんあります。安部さんの話を聞き、その知識、経験を支える利用者さんに対するの気持ち、心遣いを感じさせていただきました。教えてもらえた一日となりました。楽しい時も、そうではない時も共感、共有し歩んで行けるよう、一人一人に寄り添える人になりたいです。一生の内のとても貴重な一日に私も同じ時間を過ごしています。その一日一日を楽しみたいです。(井川樹)

生活介護、就労、グループホームとたくさんの事業をしておられます。各所の見学をさせていただき、ただただ感心するばかりでした。なかでもやはり就労の施設はとて興味深く拝見させていただきました。広島駅の北口に構えるパン屋さん『SOAR』。一等地に店を構え、そこで働くなんて想像しただけでわくわくしそうなシチュエーションが現実存在しました。本当に『素晴らしい』の一言でした。また案内をさせていただいた安部さんにはたくさんのお話をさせていただきました。目からうろこのお話がたくさんありました。1日だけでしたが、とても充実した一日となりました。(森山宏之)



「kodamArt」の1日

毎年の恒例行事となったことだま屋台村。10月11日（土）に4回目の開催となりました。台風の影響の心配もありましたが、天に思いが通じたようで少し風は強い一日でしたが、天気にも恵まれました。今年は昼の屋台村に加え、夜のライブイベントもあり、一日を通してkodamArtと位置づけ企画しました。

kodamArtとは「こだま」×「音楽」×「芸術」

屋台村のようす



当日、早い方はまだスタッフがテントなどの準備をしているところから来場されました。とても嬉しい事です。開会にあわせてトロンボーンとキーボードをつかっただけの松浦さん、伊藤さんによるコンサートで屋台村スタートとなりました。即センターの会場も大勢の人で埋まりました。

演奏はトトロの「散歩」から始まり、ラビュタの「君をのせて」やもみじ、今はやりの「レットイットゴー」少し懐かしいカーペンターズの曲など演奏されました。アンのコールのサラライは拍手と手を使ってのゆらゆらで盛り上がりました。

コンサートが終わると、こだまレンジャーの登場となりました。去年もすごく反響が大きき、より楽しいものになりました。練習に練った第2話です。こだまプラウンの不屈の闘志に心打たれ、「心の奥から熱い物がこみ上げてきたよ」との声もちらほら。なによりたくさんの方の笑顔を見させてもらう事が出来ました。「笑わせていただきました」と嬉しい言葉もたくさんいただきました。

レンジャーショーも大盛況に終わり、いよいよ第4回B級グルメ対決の幕開けです。なんと今年はシヨップみけねも参戦となりました。第1回大会を制してから少し優勝から遠ざかっているほんごは自家製監うじを使ったロールケーキバツで優勝奪還を狙いました。第2回、3回と連覇中のヘルプは男の力レー焼きそばと豚汁で3連覇を狙います。毎回優勝候補に成りながらも一番が取れない生活介護はグリーンシチューと秋にびったりスイーツ。ポレレは松江と言えは宍道湖、宍道湖と言えはのジミをふんだんに使ったジミミバスタで勝負に挑みました。初参戦となるみけねこは、ねこも喜ぶみけねこお茶づけです。

始まるやいなやこの屋台にもたくさんのお客さんが足を運んで下さいました。そしていよいよ第4回優勝の発表となりました。投票の結果は、ほんご、みけねこの同率



ほんごご露天風呂

8月の終わりから9月中旬頃まで暑い日が続きました。ほんごでは家庭用のプールを使って、「何かいいつもと違う事をしようとか？」と考え思いついたのが「ほんご露天風呂」です。

第1回ことだま露天風呂の日はとても天気が良く青空が綺麗でした。その日は朝からほんごの近くにある嫁島温泉の源泉をポリタンクで汲みに行くチーム。ほんごに残って富士山の絵を書いたり、プールを膨らませたりする準備チームに分かれて準備をしました。源泉のお湯は水道の蛇口から出ている硫酸の匂いがしていました。温泉の湯をポリタンク6個に一杯にして「ヨイショ！ヨイショ！」と皆で運びました。

ほんごに帰って最初に目に入ったのが青い空と大きな紙に書かれた富士と露天風呂と書かれた旗が吊るしてありなかなかのものでした。家庭用プールも二つ並べてありそこに温泉の湯をいれました。お昼の食事を食べて休憩してから水着に着替えていざ温泉へ！青空の下、一人一人お湯につかりました。

お湯はとても気持ち良くプールの中で足を伸ばしリラクッス。手でお湯をバシバシシャシャしたりお湯をかぶったりみんみんお楽しみしていました。



温泉から上がって
も暫くは温かく体は
ポカポカしてました。
そのあとはしっかり水
分補給をした

り横になったりして休憩をして、ことだま温泉は閉店しました。今年も二回できました。



いつかこんな露天風呂に
はいりたいな〜！

ことだまプール、ことだま露天風呂に嬉しみながら楽しく笑顔が弾ける様な企画を考えて行こうと思います。

【勝部典子】

【常峰純菜】

新米ヘルパー奮闘記

先日、NPOことだま居宅介護ガイドラインを使って、ヘルパーの勉強会があり私も参加させていただきました。このガイドラインは、よりよいホームヘルプへの提供ができるよう、申請から支給までの流れ、詳しく書かれています。

その中でも、「ホームヘルプ基礎ブック」では、ついつい忘れがち、ホームヘルパーとしての心得や基本的職業論、そしてマネージャーについて書かれていて、忘れがちになっている自分に気づくことができました。私がいちばん心に残ったのは、利用者の方の人権や自己決定を尊重することを優先しなければならないことでした。



最近、自閉症の方の移動支援に1人で入らせてもらえないようになりまし。最初に先輩職員同行をさせてもらい、支援のしかたや注意する点を聞きました。その方は、バスに乗って

プールに行かれます。ですが、小さい子どもがバスやプールにいることがあります。そんなとき私は、彼女の目に入らないようにガードしたり、気をそらすような声をかけます。表情を見てそれでも、辛そうなきは、本人に伝え、納得してもらい何時もより早くプールを出るようにするなど、スケジュールの変更をします。

本人の希望を大切にしながら、その時どうしたら快適で安心してもらええる状況になるか、対応しているのも私たちヘルパーの役割だと感じています。こんなときは、私自身の力量がためられると思いましたが、これからは先輩ヘルパーさんを、いちばん身近なお手本として、話し方や素早く丁寧な対応、家族さんとの信頼関係をつくっていくことなど、私のような若い職員が学ばなければいけないと思っています。

生活介護の近況報告

生活介護では先日、「ア

ジ」が釣れ始めたというこ
とで島根町へ出かけ魚釣り
をしました。狙うは「ア
ジ」でしたが・・・いざ竿
を出してみるとワツサ〜と
集まってくるのはテンポと
呼ばれるカワハギの子ばかりでした。釣りたいのは
アジでしたがテンポでも引きを楽しむことができました
ので「釣れた〜!!!」「わ〜あ!」「やった〜!!」
と喜びの声がたくさん聞こえてきました。初めは釣
る事だけでしたが回数を重ねると順番を待っている
時に他の仲間が釣りがあげた魚を針から外してくれる
利用者さんの姿もみられるようになりました。生き
物が大好きな利用者さんはバケツの中の魚を嬉しそ
うに覗き込んでおられました。



ポレポレの近況報告

朝晩と秋らしくなってきました。最近はお弁当
の配達時は利用者さんと秋を探して楽しんでいま
す。よく見かけるのは彼岸花やコスモスです。車
の中から見て楽しんだり、時には車から降りて花
を見る方もいます。

新しいメンバーも増えて二カ月が過ぎました。
当初はお互いに遠慮する場面が見られました。最
近では自分の思った事を口に出して言う関係に
なってきたようです。その一つが洗濯室での役割分担
です。三人でローテーションを組んで洗浄作業を
行います。回収に行く時は「気をつけてね、いつ
てらっしゃい」そして帰って来ると「お帰り」と
言って回収班を迎えてくれます。

そして直ぐにお弁当の分別
が始まり洗浄が始まりま
す。洗剤で洗う、濯ぎ、分
別といった様に曜日交代
して行きます。洗浄機に
入ってるときは「もつと綺
麗に洗ってよ、次は分別だ
よ」と言った声が聞こえ相
手に教える姿も見られま
す。分担を決めて作業をするようになってからは
洗浄がとて早く終わるようになりました。



盛り付け終了後には自分から「今日は配達に行
きたいです」と言われる方がおられます。やる気
満々でも嬉しく感じます。お届けの際は「こ
こは自分を持つていきます」と言ってお届けされ
ます。お客様も顔をみては「頑張ってるようで安
心してるよ、また顔見せてね」と言ってくださ
います。以前なら職員の方から聞いてた事も今で
は思いを話してくれれます。配達に行く車内は会話
でラジオもいらいなくなりました。

配達に行くのが楽しいと言われます。お弁当の
数量も仕事のうえで大事だと思おうのですが、私
は利用者さんの話や思いに耳をかたむけ、受け止
めてあげたいと思っております。仕事が楽しくなれ
ば自然と会話も弾みます。そんな環境づくりを大
切にしていきたいと思えます。

【埜野美津代】

こだまレンジャーショー

1位でした。そこで優勝を決めるのは急ぎよじゃんけん決
戦となりました。その結果、第4回B級グルメに輝いたの
は「みけねこのお茶づけ」となりました。おめでとうござ
います。私もいただきましたが美味しく忘れてる事の出来
ない味でした。

今年は参加型イベントのストーンアートも「芸術」にか
けて公園内で行いました。海で角が取れた石にボス力で絵
を書いて楽しむものです。子供さんを中心に動物やキャラ
クターなどたくさん絵が描かれています。屋台村はこだ
まの行事としてすっかりと定着してきています。家族さん
同士の交流の場にもなっています。年にもたたくさんの足
みに来られる方もおられました。今年もたたくさんの人足
を運んでいただくことが出来てホッとしています。これか
らもここまでの行事にご期待ください。それに応えられよ
うに企画、準備をしっかりしていきます。 【井川樹】



こだまレンジャー
が力を合わせれば怖い
ものなど無いぞ...!



こだまレンジャーは永
遠に不滅です。





おんがく・アート

「KodamArt〜こだまがひびきあうとき〜」には、会場を埋め尽くすたくさんのお客様に来場していただき、大盛況のうちにコンサートを終える事が出来ました。ありがとうございました。

この企画がもちがった当初は、正直、私は（1日に2つの企画を実施するのは負担が大きすぎるし、候補の会場は設備面でもキャパシティー的に考えても難しい。）と消極的な意見でした。しかし、行事部の若手職員の（絶対、成功します。初めての試みに挑戦したい。）という熱い想いに私も感化され、一転、やる気モードに気持ちが変わりました。（こだまの若手職員たちよ！成長したな♡）

会場は、松江市第一中学校裏にある『清光院下ギャラリー』でした。隠れ家的存在で関係者のほとんどが知らなかったのですが、森の中に佇

む神秘的なコンサート会場と違った雰囲気で行った今回のコンサートには最適な場所でした。当日は、若手職員のがんばりもあり、会場いっぱいになり80名近くの来場者がありました。

ミュージシャンの樽木栄一郎さんのアッテンボム且つリズムカルなギター演奏と透き通るような歌声には、会場のみならず、いつもの間にか何もかも忘れて樽木ワールドに引き込まれていました。そして圧巻だったのが、その演奏と歌に合わせて描いていく画家：近藤康平さんの独創的な絵でした。本人の感性のまま、聴こえてくる演奏に合わせて物語風に絵を描き続けていく、その手法に、会場のみなさんが魅了されていました。しかも素手を使って、また絵の内容も演奏の進行に合わせて次々と変わっていく為、驚きと感動の連続でした。本当に素晴らしいライブ

コンサートに来場していただいたお客様はもちろん、趣旨に賛同して出演を快諾していただいた樽木さん、近藤さん、そして関係者のみなさんには心からお礼申し上げます。

そして今回、最後まで諦めない気持ちを持ってKodamArtの企画、準備、本番に取り組んで成功に導いてくれた行事部若手職員の勇氣ある姿勢には頭が下がる想いです。本当によくがんばってくれたと頼もしく思います。まだまだ、反省する点は多々ありますが、今回は二重丸の評価を届けたいと思います。おつかれさまでした。

【渡部健史】



キャンドルのあかり



色とりどりのキャンドルが灯って幻想的です



会場ではアロマも炊かれ非日常の世界に引き込まれました



樽木さんの澄んだ声が会場に響きました



外では、サンドイッチ、コーヒーのお店も



会場入り口も沢山のキャンドルで彩られました